

	貴団体・貴方の名称	活動内容を教えてください。	主な対象としている子供の年齢、属性など	活動の規模
1	らいむぎハウス	子ども食堂 居場所づくり 学習支援 母の集い	小1から高三	月二回 3-6時間 60-90人/1回
2	ふじみ子ども食堂	食事の提供	1~13歳(現在)高校生まで対象 ひとり親家庭や家族(父母、祖父母)での利用。 近隣なら子供のための参加もあり	月2回、2時間半、子供10人前後/1回 保護者を含めると25~35人
3	羽村プレーパーク	子ども達の遊び場づくりを中心に世代間の交流の場	ゆりかごから墓場まで	毎週一回程度から年4回活動の目的、内容により一回10人から200人程度
4	社会福祉法人亀鶴会 1)かふえてりあ はろ、2)神明台自習室 みらい	1)かふえてりあ はろ:小中学生の居場所づくり 食事の提供 2)神明台自習室 みらい:中学生の居場所づくり (安心した環境で学習できる自習室の提供) 食事の提供	1)かふえてりあ はろ:小学3年生~中学1年生 (兄弟と一緒にあれば小学1年生から利用可能) 2)神明台自習室 みらい:中学生	1)かふえてりあ はろ:週2回、3時間、食事は10食まで提供 2)神明台自習室 みらい:週2回、4時間、食事は10食まで提供
5	みんなのカフェメリ・メロ	食事提供・栄養相談・子育て相談・手作りの品物販売等	どなたでも	週3回
6	はむらプレーパークの会(2回目)	遊び体験の環境設定、自由に自分の責任で遊ぶ、遊びの見守り	0~3歳親子(そとっこ広場)、0~小中学生(一日プレーパーク)、 小学生(放課後プレーパーク)	そとっこ(月2回午前中)-2組、 一日プレーパーク(年3回、10時から15時)-150人、 放課後(月1回)-50人
7	NPO法人フリースペースロビンソン (登校拒否・不登校を考える親の会「ポコ・ア・ポコ」)	不登校の子どもたちの居場所・親の会・学習会、講演会	不登校の子どもたち(6~18歳)とその親	不登校の子どもたちの居場所(週1回)・ 親の会(月1回)・学習会、講演会(年2~5回)
8	(特非)子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩はむらブロック	「地域のおそびばinはむら」:地域の子どもも大人も一緒に あそべる居場所作り 他舞台鑑賞体験、ワークショップ、キャンプ活動の実施など	乳幼児から小学生 保護者や近隣居住者	毎月第三(日)10:00~12:00の2時間 1回につき10人

	貴団体・貴方の名称	現在感じている課題	こどもの居場所づくりについて、今後どのようになっていくと良いと思うか
1	らいむぎハウス	特になし	継続できるよう、安定した資金
2	ふじみ子ども食堂	子どもたちの居場所の必要性	各団体の活動状況などの情報共有ができる
3	羽村プレーパーク	課題1、大人の環境が優先になっていること。 2、子どもに関わる環境をつくる事が仕事としてしっかり成り立っていない事。 3、子ども達の子どもの時代に何が大切かをしっかり議論して様々な世代の関わりが希薄になっている事。 4、子ども達の対応が問題ではなく、大人が考え方を見直す事が最大の課題だと感じております。 そうした課題を吸い上げていただける事に希望も見えます。有り難うございます。	上記でもお伝えしたように、居場所づくりがしっかりと仕事として成り立ち、そこに様々な世代、地域を超えた様々な人がボランティアなどで交流する。また、子ども達がお年寄りや赤ちゃん、お兄さんお姉さん、障がいを持った方々と関わり、社会貢献できる喜びを味わう環境づくり。多様性、世代間を超えたインクルーシブな環境を模索していくシステムがあると良くなっていくと思います。
4	社会福祉法人亀鶴会 1)かふえてりあ はろ、2)神明台自習室 みらい	①こども達の居場所となるよう週2回と開催回数を多く設定し活動をしている。活動回数を多く設定すると、こども達は交友関係で参加を判断するようになる。家庭環境や発育に難しさを抱える子が残り、段々と参加する子が減る。 ボランティアさんの参加も減ると活動がなかなか安定しない状況を繰り返している。 活動の安定と難しさを持った子の対応。 また問題を抱える子どもとどうつながり続けるべきか課題として感じている ②市や学校との連携 ③運営費の捻出	①現在は小さい活動ではあるが、こども達の見えにくい問題が可視化されやすい、問題発見の場にはなっていると感じる。また個々で活動の難しさを感じる。色々なかたちの居場所が市内にもっとできると良い、あるべきだと思う。 ②こども達の為に何が必要か、何をすべきか話し合う、情報交換の場があるといい。
5	みんなのカフェメリ・メロ	羽村の小中学校の子どもたちの現状を知りたい	団体・学校・関係者との情報共有
6	はむらプレーパークの会(2回目)	子どもたちの聞いて欲しい気持ち強く、スタッフが足りない。ストレスが溜まっている感じがする子が多い。トラブルがあると自分たちで解決できなく、学校に言ってしまう子がいるので学校の先生も困ってしまう。 現役保護者の理解	会館や公共施設などのスペースが自由に使えると良い。学校がもっと居心地のよい居場所になると良い、空きスペースを利用して、誰でもカフェのような場所。 子ども達の居場所になれる大人の育成が必要(傾聴やアプローチ)。保護者も参加しての居場所づくりが課題です。ボランティアの高齢化有り)
7	NPO法人フリースペースロビンソン (登校拒否・不登校を考える親の会「ボコ・ア・ボコ」)	不登校の子どもたちが家から一歩出られ、安心して過ごせる居場所になるよう、子どものありのままを尊重しています。 決まりや規則も大人が作るのではなく、子どもたちが必要に応じて自分たちで考え合うことを大切にしていますが、「子どもは大人が教え、導くもの」と考える大人たちにその事を理解してもらうことが難しいです。 こどもの居場所づくりは、今後、子ども権利条約の理念が活かされたものになっていくと良いと思います。 特に、第3条「子どもの最善の利益」、12条「子どもの意見の尊重」、31条「休息・余暇、遊び、文化的・芸術的生活への参加の権利」を保障することは、子どもの成長、発達に欠かせません。居場所の設置と運営において、そこに関わる大人が子どもの権利について学び、近隣への理解も得ながら、子どもたちの成長する権利を制限したり、奪ってしまわないよう、地域全体での学びが必要だと思います。 その役割を行政と居場所関係者が協働して行っていくことが、大事だと思います。	居場所には、地域や大人たちの理解が何より大切だと感じています。 子どもたちの遊びを管理や規制することなく、子どもが思いきり遊べる場とそれを大らかに見守れる大人や地域が今後の居場所づくりには、何より必要だと思います。
8	(特非)子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩はむらブロック	今のところ、子どもの対応での課題はない(保護者同伴が多いため)	地域のあそびばを定着させていきたい。できれば回数や地域も増やしたい。 地域の会館が活用されるような取り組みになれば良い。